

二男

年 齡	年 齡 と 配 偶 の 關 係		千 分 比 例	
	一 總 數	有 配 偶	死 別	離 別
總 數	1000	378.1	45.2	11.3
0-19	565.3	18.5	0.1	0.9
20-29	980.5	65.6	9.3	2.4
30-39	326.6	91.2	29.8	3.9
40-49	336.0	88.4	78.9	3.2
50-59	237	78.5	18.1	2.5
60-69	79	61.8	36.1	3.5
70-79	42	39.7	58.7	1.9
80-89	37	23.3	78.3	1.4
90-99	33	17.5	82.8	1.3
1000	2500	2500	5000	1000

三女

年 齡	年 齡 と 配 偶 の 關 係		千 分 比 例	
	一 總 數	有 配 偶	死 別	離 別
總 數	1000	480.7	35.7	15.9
0-19	772.9	176.6	20	7.9
20-29	658.4	103.7	14.5	4.1
30-39	102.6	143.0	35.8	4.2
40-49	839.2	185.3	62.5	3.3
50-59	237.5	70.9	82.7	2.4
60-69	84.8	32.5	82.7	1.0
70-79	33	10.3	64.5	0.3
80-89	13	10.8	39.6	0.4
90-99	1	5.5	84	1
1000	1	1	1	1



年	總數	三女		有配偶	死別	離別	計
		未	婚				
一九〇一	一〇〇	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇
一九〇二	九〇	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇
一九〇三	八〇	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇
一九〇四	七〇	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇
一九〇五	六〇	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇
一九〇六	五〇	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇
一九〇七	四〇	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇
一九〇八	三〇	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇
一九〇九	二〇	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇
一九一〇	一〇	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇
總計	一〇一九	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	一〇〇〇〇

三、地方別

年	總數	未	婚	有配偶	死別	離別	計
一九〇一	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇〇〇
一九〇二	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	一〇〇〇〇
一九〇三	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	一〇〇〇〇
一九〇四	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	一〇〇〇〇
一九〇五	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	一〇〇〇〇
一九〇六	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	一〇〇〇〇
一九〇七	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	一〇〇〇〇
一九〇八	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	一〇〇〇〇
一九〇九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	一〇〇〇〇
一九一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇〇〇〇
總計	一〇一九	一〇一九	一〇一九	一〇一九	一〇一九	一〇一九	一〇〇〇〇

世帯人口總數 全道十四支廳中世帯及人口の最も多きは空知支廳の六四、八三二世帯三五〇、二九一人にして人口に於て全道の一四・〇%支廳合計の一八・五%に當り支廳市平均人口の約三倍の大人人口を擁す次は上川支廳の四三、三九九世帯二四四、九七七人にして人口に於て全道の九・八%支廳合計の二三・〇%に當り支廳市平均人口の約二倍を占む之に石狩支廳札幌旭川二市を加ふれば全道總人口の約四割は石狩川流域たる前記三支廳二市に集中せるを知るべく是れ北海の寶庫と稱せらるゝ石狩炭田及上川石狩の沃野を擁せるが爲めなり支廳中第三位は網走支廳の三九、六〇〇世帯二二二、六八九人にして人口に於て全道の八・五%支廳合計の一・三%に當り支廳平均よりも七割多し次は後志渡島河西石狩の順序にして何れも十万以上の人口を有す支廳中人口の最も少きは浦河支廳の五一、六七四人根室支廳の五六、八九一人にして支廳市平均の半にも達せず。

全道六市中世帯人口の最も多きは函館市の三三、三二八世帯一六三、九七二人にして人口に於て全道の六・六%市合計の二七・〇%に當り次は札幌市の二八、七二六世帯一四五、〇六五人小樽市の二六、五五六世帯一三四、四六九人にして人口に於て全道の五・八%及五・四%市合計の二三・九%及二二・一%に當る旭川市は七二、三四一人にして中間に在り室蘭市の五〇、〇四〇人釧路市の四二、三三一人は遙に少し。



第一回との比較 大正九年十月一日現在の第一回國勢調査と比較するに人口總數に於ては 一三九、四九六人即ち 五九・一%増加せるは前に説明せるが如く既往五箇年間に於ける道内出生死亡の差に依る自然増加は約二十五万人なるを以て結果五箇年間に於て約十一万人餘分に道外に轉出しそれだけ相對的に見て人口減少せることとなるが今之を都鄙に區別して觀察するに支廳合計に於ては 四三、五一二人即ち 二三・六%一箇年平均四・七%の幾何増加に過ぎざるに市合計に於ては九五、九八四人即ち一八七・四%一箇年平均二四・九%の幾何増加に當り支廳に比し市は人口増加率約八倍の多きを示せり故に前説の如き人口の相對的減少は市部に現はれず郡部にのみ限られたる現象にして而も市部は自然増加の約二倍増加し郡部は自然増加の約四分の一より増加せざるを以て結局郡部に於ては農業漁業鑛業等不況の爲め府縣樺太並都市等に轉出するもの續出し五箇年間に約十五万人の人口を喪失せることとなる是に由つて見るに近年本道に於ては人口都市集中農民離村の傾向顯著にして年々莫大なる拓殖費を投じ移民の招徠誘導に努めつゝあるにも拘らず却つて道外に十餘万人の移民を送還せるの奇現象を呈し本道拓殖上は勿論近年人口問題食料問題解決策として本道の開發國內移民の必要を唱道せらるるに鑑み實に看過すべからざる重大問題と謂ふべし。

支廳中人口増加の最も多きは實數に於ては渡島支廳の一九、〇四四人網走支廳の一〇、五二五人上川支廳の六、一六〇人釧路國支廳の五、七五七人等にして割合に於ては渡島支廳の二三三・七%即ち一箇年幾何平均二五・四%釧路國支廳の九八・一%即ち一箇年幾何平均一八・九%根室支廳の九一・二%即ち一箇年幾何平均一七・六%等なり右の内渡島支廳の増加最も著しきは國勢調査當時漁村方面に一時入稼者多きが爲めにして網走上川兩支廳の増加多きは總人口多きが爲め自然増加亦從つて多く他に轉出せるもの尠からざりしに拘らず差引實數に於て増加したるに過ぎず釧路國支廳根室支廳の増加多きは保護移民の入地せること其の主因と見るべし次に人口減少の最も多きは後志支廳の一三、一五二人七〇・六%即ち一箇

年幾何平均一六・八%の減少にして次は宗谷支廳の四、一七七人五五・三%即ち一箇年幾何平均一一・三%留萌支廳の一、三六〇人一八・六%即ち一箇年幾何平均三・七%等なり右各支廳の人口減少せるは連年沿岸鯨群來薄漁なりしと農村不況の結果なり猶渡島支廳以外は人口の實數増加せるものも自然増加との關係を見るときは何れも相對的に觀て人口減少せるものなることは前に説明せるが如し。

六市中人口増加の最も多きは札幌市の 四二、四八五人にして全道十四支廳の總増加數に比肩すべく既往五箇年間に於て四一・四・六%即ち四割一分餘一箇年幾何平均増加率實に七一・八%なり右は(一)控訴院農産物検査所等の司法行政機關札幌市に移轉せること(二)大學中等學校等の機關益々完備せること(三)大學病院其の他の公私立病院増加せること(四)右各所の職員其の他關係者の家族轉入増加せること(五)右關係營業増加せること(六)工場増加せること(七)比較的生活の平定課税の低率娛樂文化機關の普及地價低廉住宅地多きこと等は各地方より人口の流入を誘致せるに依るものとす 次は小樽市の二六、三五六人にして其の割合は二四三・八%一箇年幾何平均増加率四四・六%なり右は製罐製粉其の他の工場設置せられ又サガレン方面の策源地として重要視せらるるに至り加ふるに隣接農村漁村方面不況の爲め續々轉入者ありたるに依るものとす次に函館市の一九、二二三人旭川市の一一、〇二二人の順序なるも割合に於ては反對に旭川市の 一七九・七%即ち一箇年幾何平均増加率三三・六% 函館市の 一三二・八%即ち一箇年幾何平均増加率二五・三%の順序となる右二市の増加は是亦人口都市集中の一般的理由に依るものなり猶以上四市の増加率は支廳中最も増加の多き渡島支廳の率よりも多きを示せり釧路市は僅に二、九四〇人即ち七四・六%増加し室蘭市は却つて六、〇四二人即ち一〇七・七%の減少を示せるは前者は木材不況數度の火災築港工事未完成石炭礦業不振等に依るものなるべく後者は製鋼製鐵二大工場の事業縮少其の主因を爲せり。

一世帶當人口 一世帶當人口は前記の如く全道平均五人三分なるが今市と支廳とを比較するに六市平均五人一分に對し十四支廳平均五人四分にして都市より郡部の方遙に多きは世界共通の現象にして其の



差が内地府縣の如く著しからざるは新開地たるの關係に依るものとす支應中檜山渡島最も多く五人八分を示せるは開拓年所を経たると調査當時沿岸漁村に鳥賊釣の一時現在者多かりしが爲めなり釧路國浦河後志膽振各支應の少きは一時的出稼者の多きこと其の主因なるべし。

密度 人口密度は六市平均三八・九八三人に對し十四支應平均三〇・八八にして後者は百分の一よりも少し支應中人口密度の最も多きは空知支應の八一・九人にして支應平均の二倍七分に當る右は水田農家多きと炭山多きが爲めなり次に渡島支應の六六・四人後志支應の六二・五人多く支應平均の二倍以上に當れるは開拓年所を経且つ漁村を控へ都會に隣接せるが爲めなり之に次くは石狩支應の五二・〇人膽振支應の四一・三人にして其の理由は全體前記各支應と同様なり又人口密度の最も少きは根室支應の四五・五人なり是は千島列島を擁せるが爲めにして之を除けば一七・六人となり釧路國支應の一四・二人より多し右二支應の人口稀薄なるは交通氣候其の他の關係上他地方に比し開拓著しく遅延せるが爲めなり次に浦河支應少く一六・六人に過ぎざるは山岳多きと新冠御料牧場日高種馬牧場等地農耕地の大部分を占有せらるゝが故なり。

市に在りては函館市の一三・九、三一人札幌市の九〇・五五二人最も多く旭川市の四九・三八〇人小樽市の三七・〇四四人次に次ぎ釧路市は一四・一五三人室蘭市は一〇・五六四人に過ぎず釧路室蘭兩市の一方里當人口割合に少きは都市の割合に面積廣濶にして岳陵原野を包括し人口未だ全市に充實し市街を形成するの域に達せざるが爲めなり小樽市の密度割合に少きは脊後に山嶽を控へ居るが爲めにして旭川は市内道路廣く河川多きが爲め是亦人口密度割合に少し札幌函館兩市は大部分純然たる市街地のみ市の地域に編入せられ居るが爲め人口の密度極めて多し。

性別 女百人に付男の割合は全道に於て一〇・九・四人なるが之を地方別に見るに支應は一〇・九・二人なるに市は一〇・〇・八人にして市の方〇・八人多きも府縣に比し其の差至つて少く殊に郡部は前に説明せる

如く人口都市集中農民離村の現象顯著なるにも拘らず男の割合頗る多きは一見奇異の感を抱かるゝも他面本道の産業其の他の状態を考慮すれば其の理由自ら判明すべし即ち本道は漁業の大部分は入稼漁夫に依つて營まれ石炭其の他の鑛山多く鐵道河川港灣灌溉溝等の土木工事少からず又行商人の入込も多く而も是等は大部分地方町村に屬し居るを以て農民漁民離村出稼多きに拘らず男の割合多きを示せるものなり。

支應中に於ては根室支應が男の割合特に多く一三五・八人即ち女に比し男は三割五分八厘も多く最高位を占め居るは國後擇捉北千島方面の漁場入稼人が未だ全部引上歸還せざるが爲めなり次に釧路國支應の一・一六・七人渡島支應の一・一五・一人石狩支應の一・一〇・九人宗谷支應の一・一〇・三人網走支應の一・〇八・九人空知支應の一・〇八・八人河西支應の一・〇八・五人等多し其の理由は空知釧路國支應は炭山多く猶釧路國支應は其の外に近年保護移民其の他の來往者少からざるが爲めにして渡島宗谷兩支應は漁業入稼者多く網走河西は各種土木事業の關係者入込多く石狩は二十五聯隊あるが爲めなり男の割合最も少きは後志支應の九・九・七人にして全道支應市中唯一の女子超過地方なり右は沿岸漁業不振農村疲弊の爲め轉出者出稼人多きが爲めなり。

市に在りては旭川市の二二・九・一人最も多し是れ七師團あるが爲めなり次に室蘭市及釧路市の二二・三人多く札幌の一〇・四・一人函館市の一〇・七・二人最も少し其の理由は室蘭市は製鐵製鋼の大工場あり釧路市には炭山あり且つ共に港灣にして船員仲仕船客等を包含するが爲めにして札幌市の女の割合に多きは製麻麥酒製粉等女工使用の工場多く又女子の學校女子使用の諸官廳デパートメントストア旅館貸座敷飲食店等も亦割合に多きに依るものにして大學中等學校等多きに拘らず猶且斯く六市中最も女子多きものと想像せらる。

配偶關係別 支應中未婚者の割合の最も多きは石狩支應の五八・一%にして河西支應の五七・八%上川



支應網走支應の各五七・七%之に次ぎ反對に未婚者の割合最も少きは根室支應の五一・二%にして次は渡島支應の五四・四%釧路國支應の五五・〇%なり又市中未婚者の割合の最も多きは旭川市の五九・五%札幌市の五八・一%にして就中旭川市は支應市を通して最も未婚者の割合多し反對に函館市は未婚者の割合最も少く五三・七%にして小樽室蘭釧路三市は其の中位に當り大差なし而して有配偶者の割合は右と殆んど反比例を爲し死別離別は各地方共其の割合少く且つ地方により大差なし斯く地方に依り配偶關係の割合著しく異なるは各地方人口の年齢別構成産業教育並地理的關係等に依るものなるべし。

年齢別 各地方毎に年齢別構成の狀態を検討し各種の年齢階級に區分して研究するは極めて重要にして且つ興味深きことなるも多大の紙數を要するを以て茲には只生産不生産年齢別の人口のみを掲げ簡単に説明すべし十五歳以上六十歳未満の生産年齢階級の人口は支應合計に於て五一・六%なるに市合計は五九・一%にして青壯年者割合に多く不生産年齢中十五歳未満の幼年者は支應合計に於て四三・四%なるに市合計は三六・六%又六十歳以上の老年者は支應合計五・〇%に對し市合計四・三%にして共に市部の方遙に少し右は市部は郡部に比し出生少きこと長壽者少きこと農漁村より都會に轉入集中する人口は壯年者多きこと工場學校多きこと等に依る外猶本道來往者は農家は全戸移住多きに其の他は單箇移住多き等の理由に依るものなるべし更に之を支應市別に觀察すれば産業其の他の關係上其の割合一様ならず例へば支應に在りては根室支應が生産年齢階級の人口五九・九%にして殆んど市部と同様なるに後志檜山留萌等は農村疲弊漁業不振の爲め轉出稼者多く從て生産年齢階級の人口僅に四九%臺を示せるに過ぎず又市部に在りても軍人多き旭川市は六〇・八%漁夫船客多き函館市は六〇・〇%なるに室蘭市は五六・一%釧路市は五六・二%にして此間亦著しき相違あるも詳密なる説明は之を省略し左に生産不生産年齢の支應市別人口を掲ぐ

總數

支應市名	世帯	人口	百分比例	第一回ニ比較人口増減率	一世帯當人口	一方里當人口
石狩	二〇、八九八	一一九、〇八三	四・八	五、四三九	五七	五二〇
空知	六四、八三三	三三〇、二九一	一四・〇	一、四六五	四三	八一九
上川	四三、三九九	二四四、九七七	九・八	六、一六〇	五八	三八三
後志	三三、一四六	一七三、三四〇	六・九	一三、一五二	七〇・六	六五
檜山	一一、九五三	六八、八四五	二・七	一	〇・〇	五八
渡島	二八、〇〇六	一六一、五四八	六・五	一九、〇四四	二二・七	六四
釧路	一八、五七三	九七、三三三	三・九	一、六三三	一六・九	五八
浦河	一〇、三四七	五一、六七四	二・一	二、八八五	五九・二	五〇
河内	二七、一七一	一四六、一八〇	五・九	四、五五九	三三・三	五〇
釧路	一一、八〇三	六四、三二四	二・六	五、七四三	九八・一	五〇
根室	一〇、二八二	五六、八九一	二・三	四、七五七	九・三	五五
網走	三九、六〇〇	二二二、六八九	八・五	一〇、五二五	五三・二	三〇三
宗谷	一一、八二六	七一、三七八	二・九	四、一七二	五五・三	三〇七
留萌	一一、五六〇	七一、九二七	二・九	一、三六〇	一八・六	五三
札幌	二八、七二六	一四五、〇六五	五・八	四、三六八	四二・六	五〇
旭川	一一、三二二	七三、三四一	二・九	一、一〇三	一七・七	五五
小樽	二六、五五六	一三四、四六九	五・四	二、六三六	二四・三	五一
函館	三三、三三八	一六三、九七三	六・六	一九、三三三	二二・八	四九
室蘭	一〇、一五〇	五〇、〇四〇	二・〇	六、〇四三	一〇・七	四九
釧路	八、四六三	四二、三三一	一・七	二、九四〇	七四・六	五〇
合計	四六八、七二九	二、四九八、六七九	一〇〇・〇	二、三九四九六	五九・一	五三



男女別

支廳市名	實數		女百ニ付男
	男	女	
石狩	六二,六二九	五六,四五四	一〇八
空知	一八二,五〇七	一六七,七八四	一〇八
上川	一三六,五四三	一一八,四三五	一〇八
後志	八六,五五七	八六,七八三	九九七
檜山	三五,七〇四	三三,一四一	一〇七
渡島	八六,四三三	七五,一一六	一〇六
膽振	五一,一〇八	四六,二二五	一〇六
浦河	二六,六七七	二四,九九七	一〇六
河川	七六,〇七三	七〇,一〇八	一〇八
釧路	三四,六四三	二九,六七三	一〇八
根室	三三,七六〇	二四,三三一	一〇八
網走	一一〇,八五一	一〇一,八八八	一〇八
宗谷	三七,四三三	三三,九四六	一〇三
留萌	七三,九八〇	七二,〇八五	一〇四
札幌	三六,九三三	三五,〇〇四	一〇五
旭川	四〇,七六六	三七,〇八五	一〇九
小樽	七〇,四二〇	六四,〇四九	一〇七
函館	八四,八八七	七九,一五五	一〇七
釧路	二二,二九六	二〇,〇三六	一〇三
合計	一,〇五,四七三	一,一九三,二〇六	一〇九

合

計

一,〇五,四七三

一,一九三,二〇六

二,四九八,六七九

一〇九

配偶關係別 總數

支廳市名	實數		數		百分比		比例	
	未	有配偶	未	有配偶	未	有配偶	未	有配偶
石狩	六九,二四六	四三,一八七	一一,二九三	二九,〇八三	五八・一	三六・三	一一・二	一〇・〇
空知	一九八,五七三	一三三,一四六	三三,五一八	三五〇,二九一	五六・七	三八・〇	一一・〇	一〇・〇
上川	一四一,四七〇	九一,七七八	二二,一一七	二四四,九七七	五七七	三三五	一一・〇	一〇・〇
後志	九九,五三三	六三,三九四	一七,〇〇六	一七三,三四〇	五七四	三六六	一一・〇	一〇・〇
檜山	三八,五三三	二六,〇三九	六,七六六	六八,八四五	五六・〇	三七八	一一・〇	一〇・〇
渡島	八七,八一四	六三,六九〇	一八,八八七	一六一,五四八	五四・四	三九四	一一・〇	一〇・〇
膽振	五四,二一九	三七,七〇四	一〇,七六六	九七,三三三	五五・七	三七六	一一・〇	一〇・〇
浦河	二八,七八〇	一九,四一八	八,九三三	五一,六七四	五五・七	三七六	一一・〇	一〇・〇
河川	八四,五六二	五四,五二八	一三,九三三	一四六,一八〇	五七・八	三七三	一一・〇	一〇・〇
釧路	三五,四〇三	二五,三二七	一〇,〇一一	六四,三三四	五五・〇	三九四	一一・〇	一〇・〇
根室	二九,一三九	二二,七八九	一,二〇八	五六,八九一	五二・三	四一八	一一・〇	一〇・〇
網走	一一三,六四六	八〇,一八四	二,二五〇	一一二,六八九	五七七	三七七	一一・〇	一〇・〇
宗谷	三九,二四一	二八,〇〇四	八四六	七二,三七八	五五・〇	三九五	一一・〇	一〇・〇
留萌	四〇,九七〇	二六,九六八	七二	七二,九二七	五七・〇	三七五	一一・〇	一〇・〇
札幌	八四,二九八	五一,八一〇	一,六三一	一四五,〇六五	五八・一	三五七	一一・〇	一〇・〇
旭川	四三,〇七五	三五,七〇五	六七三	七三,三四一	五九・五	三五五	一一・〇	一〇・〇
小樽	七五,七一九	四九,七三八	一,九四三	一三四,四六九	五六・三	三七〇	一一・〇	一〇・〇
函館	八八,一八九	六四,三三三	二,三五八	一六三,九七三	五三・八	三九三	一一・〇	一〇・〇
合計	一,〇五,四七三	一,一九三,二〇六	二,四九八,六七九	一〇九				



支廳市名	實數			數計	百分比			比例
	未	有配偶	死別離		未	有配偶	死別離	
石狩	三二,一〇四	二二,一六八	三,六八三	五六,四五四	三七・五	六・五	〇・九	
空知	九〇,九四九	六五,三七七	一〇,一二六	一六七,七八四	三九・〇	六・〇	〇・八	
上川	六五,七七三	四五,四一三	六,三三〇	一一八,四五五	三八・三	五・三	〇・八	
後志	四六,六九五	三三,八五一	六,三三二	八六,七八三	三七・九	七・三	〇・一	
檜山	一七,三九五	一二,八五五	二,五四二	三三,一四一	三八・八	七・七	〇・一	
渡島	三八,七五七	二九,八六八	五,六二五	七五,一六六	三九・八	七・五	〇・一	
釧路	二四,七二七	一九,八八三	二,七七二	四六,二二五	三九・六	六・〇	〇・一	
河野	一三,一五三	九,六六二	一,七二六	二四,九七五	三八・七	七・〇	〇・一	
網走	一五,七二二	一八,二八三	二,七七二	三六,一〇八	四一・二	五・三	〇・七	
宗谷	一五,一九四	一三,三三七	一,四五二	二九,六七二	三八・四	四・九	〇・七	
網走	一五,一九四	一〇,一五六	一,四九〇	二七,一〇八	四一・二	四・九	〇・九	
網走	五六,七三四	三九,五二二	四,七八七	一〇一,一〇三	三八・八	四・七	〇・八	
宗谷	一七,九七三	一三,七五四	一,九〇四	三三,五八〇	四〇・五	四・七	〇・九	
留萌	一八,八五三	一三,六五三	二,一九四	三五,〇〇〇	三九・〇	六・三	〇・九	

110

支廳市名	實數			數計	百分比			比例
	未	有配偶	死別離		未	有配偶	死別離	
小樽市	四三,四六四	二五,〇九四	一,九〇八	七〇,四六六	六〇・三	二・七	一・四	
函館市	四八,四四四	三三,九五三	二,三〇四	八四,一四一	五七・二	二・七	一・三	
室蘭市	一五,二二六	一〇,一三九	六七〇	二六,〇三五	五七・八	二・五	一・三	
室蘭市	一一,九九六	八,二九三	六六六	二〇,九五六	五八・三	三・二	一・六	
合計	七七三,九八二	四八〇,七八五	三五,七六八	一二,〇五,四七三	五九・三	三・八	一・三	

配偶關係別 女

支廳市名	實數			數計	百分比			比例
	未	有配偶	死別離		未	有配偶	死別離	
石狩	三八,一四二	二二,〇一九	一,六七四	六二,六二九	六〇・九	二・七	一・三	
空知	一〇七,六三三	六七,七六九	四,九二九	一八二,五〇七	五九・〇	二・七	一・三	
上川	七五,六九七	四六,三六五	三,二八三	一二五,三四二	五九・八	二・六	〇・九	
後志	五二,八三七	三〇,五四三	二,三七七	八六,五五七	六一・〇	二・七	〇・九	
檜山	二二,一三八	一三,一七四	一,〇六五	三五,七〇四	五九・三	三・〇	〇・九	
渡島	四九,〇五七	三三,七八二	二,五七三	八五,四一三	五七・七	三・〇	一・三	
釧路	二九,四九二	一九,四二二	一,五五三	五〇,四六七	五七・七	三・〇	一・三	
河野	一五,六二八	九,七五六	八五八	二六,二四二	五八・六	三・二	一・六	
釧路	四五,六六三	二七,五九四	一,九八〇	七五,二三七	六〇・〇	二・六	一・一	
網走	一六,九四二	一三,〇八〇	一,一四三	三一一,二六五	五七・〇	三・三	一・二	
網走	六五,九三三	四〇,六六三	二,八二二	一一〇,八五八	五九・五	二・五	一・三	
宗谷	二二,二六九	一四,四五〇	一,一八三	三五,九〇二	五八・八	三・二	一・四	
留萌	二二,一八	一三,三二五	一,〇八四	三五,五九七	五八・八	三・二	一・四	
札幌市	四六,三三七	二五,三八六	一,六六一	七三,九八〇	六二・六	二・三	〇・八	
旭川市	二六,三三三	一三,三五七	七七三	四〇,七六六	六四・六	三・八	一・九	

支廳市名	實數			數計	百分比			比例
	未	有配偶	死別離		未	有配偶	死別離	
室蘭市	二七,六〇二	一九,七三六	二,二三四	五〇,〇四〇	五五・三	四・三	一・一	
室蘭市	三三,五二八	一六,二六八	一,九三八	五二,七三四	五五・六	四・六	一・一	
合計	一四二,五二七	九四,四七五	二二,〇三五	二,四九八,六七九	五九・五	四・五	一・二	

配偶關係別 男

110



支廳市名	實數				計數	百分比				比例
	0-14	15-59	60-	計		0-14	15-59	60-	計	
石狩	25,517	33,753	3,359	62,629	40.7	53.9	5.4	100.0		
空知	7,614	9,948	8,045	25,607	41.9	53.7	4.4	100.0		
上川	55,215	65,517	5,810	126,542	43.6	51.8	4.6	100.0		
後志	39,330	41,871	5,366	86,567	45.5	48.4	6.2	100.0		
檜山	15,293	18,078	2,334	35,705	43.8	50.6	6.2	100.0		
波島	33,868	48,331	4,243	86,442	39.3	55.9	4.9	100.0		
膽振	20,874	27,521	2,733	51,128	40.8	53.8	4.9	100.0		
浦河	11,364	13,858	1,455	26,677	42.6	51.9	5.5	100.0		
河川	33,076	39,627	3,369	76,072	43.5	52.1	4.4	100.0		
銅路	14,057	18,979	1,606	34,642	40.6	52.1	4.6	100.0		
計	1,141,514	1,515,599	160,001	2,817,114	41.4	51.5	6.0	100.0		

生産不生産年齢別 男

支廳市名	實數	百分比	比例
宗谷	30,247	42.4	100.0
留萌	33,018	44.5	100.0
札幌	52,151	36.6	100.0
旭川	25,681	35.5	100.0
小樽	48,803	36.3	100.0
函館	58,118	35.4	100.0
室蘭	20,054	35.0	100.0
室蘭市	16,895	40.0	100.0
室蘭市	3,159	56.1	100.0
計	1,042,866	41.7	100.0

1101

支廳市名	實數	百分比	比例
石狩	50,484	42.4	100.0
空知	15,155	43.3	100.0
上川	10,977	50.6	100.0
後志	7,743	49.1	100.0
檜山	29,774	49.7	100.0
波島	66,000	43.2	100.0
膽振	41,265	49.9	100.0
浦河	22,186	43.9	100.0
河川	65,196	43.4	100.0
銅路	27,739	44.6	100.0
銅路	20,146	44.1	100.0
銅路	7,593	51.0	100.0
計	963,355	43.7	100.0

生産不生産年齢別 總數

支廳市名	實數	百分比	比例
札幌市	37,971	53.4	100.0
旭川市	16,753	37.2	100.0
小樽市	33,355	51.1	100.0
函館市	39,745	39.5	100.0
室蘭市	12,376	40.5	100.0
室蘭市	10,542	39.8	100.0
室蘭市	7,997	63.3	100.0
計	639,545	46.5	100.0

1102



河 西 國 室 走 谷 宗 廟 札 留 宗 綱 根 綱 河	路 關 館 椽 川 幌	計 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市	實 數							百 分 比	例
			0-14	15-59	60-	計	0-14	15-59	60-		
三三,一三〇	二四,九一〇	三〇,七八八	七〇,一〇八	四四,九	四九,八	四九,八	四〇,〇	四〇,〇	一〇〇,〇		
一三,六八三	一四,七九三	一,一九七	二九,六七三	四一,一	四一,一	四九,九	四〇,〇	四〇,〇	一〇〇,〇		
九,九四二	一三,〇六九	一,二二一	二四,一三一	四四,三	四四,三	四八,七	四七,〇	四七,〇	一〇〇,〇		
四七,八二一	四九,六四一	四,三七六	一〇一,八三八	四七,〇	四七,〇	四八,七	四七,〇	四七,〇	一〇〇,〇		
一五,〇三九	一七,四〇八	一,四九九	三三,九四六	四四,三	四四,三	五一,三	四九,七	四九,七	一〇〇,〇		
一五,七〇三	一七,三九七	一,九〇五	三五,〇〇四	四四,八	四四,八	四九,七	四九,七	四九,七	一〇〇,〇		
二六,〇一七	四一,四七六	三,五九三	七二,〇八五	三六,六	三六,六	五八,三	五八,三	五八,三	一〇〇,〇		
二二,五二八	四一,四七六	三,五九三	七二,〇八五	三六,六	三六,六	五八,三	五八,三	五八,三	一〇〇,〇		
二四,〇四〇	三六,九七三	一,三七八	六四,〇四九	三七,五	三七,五	五七,七	五七,七	五七,七	一〇〇,〇		
二九,〇一〇	四六,〇〇一	四,一四四	七九,一五五	三六,七	三六,七	五八,一	五八,一	五八,一	一〇〇,〇		
九,八〇九	一三,八六九	一,〇〇四	三三,六八三	四一,四	四一,四	五四,三	五四,三	五四,三	一〇〇,〇		
八,三五八	一〇,八三七	八四一	二〇,〇三六	四七,一	四七,一	五四,一	五四,一	五四,一	一〇〇,〇		
五,四八七	六,一九一三九	五,九四八〇	一,一九三,二〇六	四三,一	四三,一	五一,九	五一,九	五一,九	一〇〇,〇		

支 廳 市 名	實 數							百 分 比	例
	0-14	15-59	60-	計	0-14	15-59	60-		
石 狩 知 川 志 山 後 檜 津 浦	二四,九六七	二八,二七〇	三,二二七	五六,四五四	四四,三	五〇,一	五七,〇	一〇〇,〇	
空 知 川 志 山 後 檜 津 浦	七五,〇八一	八四,八一九	七,八八四	一六七,七八四	四四,七	五〇,六	四七,〇	一〇〇,〇	
上 志 山 後 檜 津 浦	五,四,五〇三	五,八五三	五,四〇〇	一八,四三三	四六,〇	四九,四	四六,〇	一〇〇,〇	
後 檜 津 浦	三,八,一五三	四,三三三	五,三〇七	八,六七三	四四,〇	五〇,〇	四六,〇	一〇〇,〇	
檜 津 浦	一四,四七三	一六,二九八	二,二七一	三三,〇七一	四三,七	四九,三	四六,〇	一〇〇,〇	
津 浦	三三,一三三	三八,六一九	四,三六五	七五,一六	四二,八	五一,四	四九,三	一〇〇,〇	
浦 津 浦	二〇,三九一	二二,四四五	二,二七九	四四,一三五	四四,一	五〇,七	四九,三	一〇〇,〇	
浦 津 浦	一〇,八二三	一二,八一〇	一,三六五	二四,九七七	四三,三	五一,三	四九,三	一〇〇,〇	

生産不生産年齢別 女

室 走 谷 宗 廟 札 留 宗 綱 根 綱 室	路 關 館 椽 川 幌	計 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市	實 數							百 分 比	例
			0-14	15-59	60-	計	0-14	15-59	60-		
一〇,二〇五	三,〇〇九	一,五四六	三三,七六〇	三一,三	六四,一	四七,〇	四七,〇	一〇〇,〇			
四八,五二四	五七,四九三	四,八四四	一〇八,五一一	四三,八	五二,九	五二,九	五二,九	一〇〇,〇			
一五,二〇八	二〇,三〇六	一,九一八	三七,四三三	四〇,六	四九,八	五〇,三	五〇,三	一〇〇,〇			
一六,三二六	一八,三七六	二,三三一	三六,九三三	四四,二	四九,八	五〇,三	五〇,三	一〇〇,〇			
二七,一三四	四三,三七七	三,一〇九	七三,九八〇	三六,七	三六,七	五九,二	五九,二	一〇〇,〇			
二四,七六三	二六,三三六	二,二八七	五三,三九九	三三,七	三三,七	六四,六	六四,六	一〇〇,〇			
二九,一〇八	四二,九九一	二,六六七	七〇,四三〇	三五,二	三五,二	六一,〇	六一,〇	一〇〇,〇			
一〇,二四五	一五,二〇八	九〇五	二六,三五八	三八,九	三八,九	五七,七	五七,七	一〇〇,〇			
八,五三七	一二,九七五	七八四	二二,二九六	三八,三	三八,三	五七,七	五七,七	一〇〇,〇			
五,二八二七九	七,六,二四九	六〇,九四五	一,二〇五,四七三	四〇,五	四〇,五	五四,九	五四,九	一〇〇,〇			



昭和三年五月二十四日印刷  
昭和三年五月二十五日發行

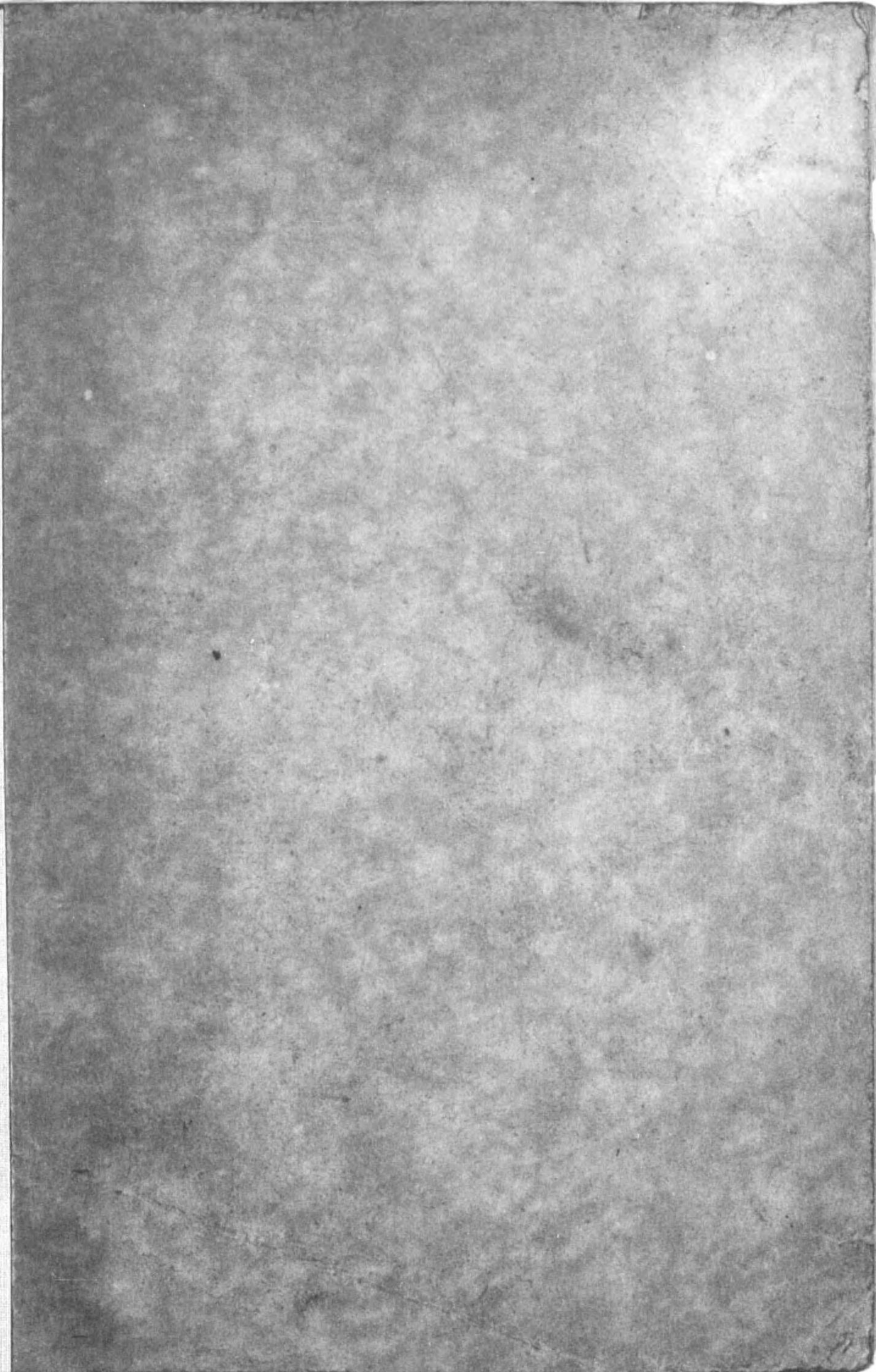
北海道廳長官官房統計課

札幌市北三條西五丁目

北海道廳印刷所



14.4  
804





終